

令和4年度 経済建設委員会視察報告書



期 間： 令和4年11月7日(月)～9日(水)

視察先： 兵庫県上郡町

【産業廃棄物最終処分場設置に関する住民投票について】

徳島県鳴門市

【最新の道の駅「くるくるなると」について】

徳島県上勝町

【ごみの分別(ゼロ・ウェイスト)他について】

参加者： 議員 委員長 永山英人、副委員長 小林孝幸、
鈴木規子、牧野次郎、鈴木正章、藤井基夫、中村直行
随行 ごみ減量課 小笠原敬
議会事務局 杉浦弘樹

産業廃棄物最終処分場設置に関する住民投票について

【日時】令和4年11月7日 13時半～15時

【場所】上郡町役場

1. 視察地の概要

所在地：兵庫県赤穂郡上郡町大持 278 番地

人口：14,091 人 世帯数：6,428 世帯

面積：150.26 km² 財政力指数:0.55

- ・兵庫県の南西部に位置し、西部は岡山県と隣接
- ・昭和30年に1町4村が合併し、現在の上郡町が発足
- ・町域の大半が山地、丘陵地で占める。千種川流域に市街を形成。町の北東部は播磨科学公園都市の一部
- ・町の南部をJR山陽本線が東西に通過し、智頭線の分岐点となる上郡駅が存在し、京阪神地域や山陽、山陰地域などの広域的な交通の要所地



上郡町役場にて

2. 調査事項の概要

西尾市の抱える産廃問題と同様の諸問題を抱える上郡町の産廃対策・住民投票に至るまでの調査・研究のために視察先に選定した。

産業廃棄物最終処分場計画の概要は、赤穂市側の山中に処分場の施設を建設し、上郡町側に進入路を造成。20年間で約302万立方メートルを埋め立て、汚水は同町の千種川水系・梨ヶ原川に放流するという計画である。

この計画に対し住民団体が反対を表明し、住民投票条例制定に向け、署名活動を開始した。

令和3年1月には、6,773人の署名が集められた。これを受け、同月の臨時議会に条例案が提出されたが、否決となった。同年7月の町長・町議会選挙において、反対表明の町長・町議会議員が当選し、同年9月に条例案が可決となった。

令和4年7月10日に行われた「産業廃棄物処分場の建設の是非を問う住民投票」で、投票率68.54%、成立と開票の要件である50%以上となり、開票の結果、建設に「反対」が6,515票「賛成」が1,711票だった。反対が多数となった結果を受け、町長は「町民の思いを受け、計画を断念してもらえるよう事業者に要請したい」、「町民が町の将来を自分のこととして判断して下さったことであり、町長として誇りに思う。町の自然を次の世代に残したいという思いの表れ」と述べた。

しかし、住民投票の結果に法的な拘束力はなく、建設の許可権者は兵庫県であるため、県と事業者に対して計画の撤回を求めた。それに対する事業者の回答は、「非常に重く受け止めている。反対があることを肝に銘じる」としながらも「今後も住民の疑問や不安に対して真摯に対応していき、丁寧な説明を続けていくのが当社の立場。当社からは撤退はしない」というものだった。

住民投票条例制定から、県と事業者「反対」の要望書を提出するまでの一連の動き、行政・議会の対応を調査した。

3. 主な質疑とその回答

① 産業廃棄物最終処分場建設計画(業者からの提案)の詳細はどのようですか。

答：現段階で確認できる計画は、令和2年6月3日に県から赤穂市、上郡町に照会のあった「産業廃棄物処理施設の設置に係る紛争と予防と調整に関する条例に係る事業計画事前協議書」の内容のみであり、事業者から具体的な説明は受けていない。

② 住民投票条例の設置までの経緯はどのようでしたか。

答：令和3年1月の住民投票条例制定請求者に、6,773人の署名が集められた。

また、同月の議会臨時会に、住民投票に関する条例案が提出されたが否決となった。その後、同年7月の町長選挙、町議会選挙において、反対表明の町長、議員が当選し、議会構成も刷新され、同年9月に町長が条例案を提出し可決となった。

③ 条例設置に際して、どのような問題があり、どのようなご苦労がありましたか。

答：条例第3条「住民投票は、本条例の施行の日から1年以内に、これを実施するものとする。」

→ 町民からは、いつ実施するのかの問い合わせが相次いだ。

条例第8条「住民投票は、投票した者の総数が当該住民投票の投票資格者数の2分の1に満たないときは、成立しないものとする。この場合においては、開票作業その他の作業を行わない。」

→ 投票率の確保に向け、実施日を考慮するとともに、町民への情報提供と啓発に努めた。

④ 住民投票までに住民団体による署名などの動き、議会の対応はどのようでしたか。

答：行政としては住民投票までに公平中立な立場で町民への情報提供に努めた。

なお 住民投票期間中は、住民投票運動については、国政選挙と同時執行のため、戸別訪問など選挙運動として問題があるという紛らわしい状態がうまれる恐れがあるため、住民団体においては、個人として住民投票を呼びかける活動のみに止めている。議会としては、多数を占める反対派議員がこれらの活動を行っており、特別な対応はしていない。

⑤ 投票日を参院選(投票率 68.26%)に設定した理由と同時投票の効果はあったと考えますか。

答：多くの民意を問うため、50%以上の投票率を確保することが重要であり、選挙期間が長い参議院議員選挙と同日で執行することとした。(期日前投票期間4日→16日により、投票率の向上が期待される。)加えて、経費の削減が図られることも挙げられる。

効果としては、過去12年の国政選挙に比較すると、5～10ポイント上昇しており、一定の効果はあったと考えている。

⑥ 住民投票条例を設置してから投票日まで、周知活動など町の対応はどのようでしたか。

答：・横断幕の設置(役場庁舎)
・広報車(R4.6.23～7.10)
・屋外拡声器(R4.6.23～28 7.9・10)



視察中の様子

(経済建設委員会・兵庫県赤穂郡上郡町)

- ・住民投票お知らせチラシ（全戸配布 6.15）
- ・啓発ティッシュ配布（2,000 個）
- ・ケーブルテレビ配信（20 回／日）
- ・HP 掲載
- ・広報紙（6 月号）
- ・上郡町 LINE 配信
- ・ポスター配布（各自治会 6.28）
- ・産廃処理施設のお知らせチラシ：住民課（全戸配布 3 回）

⑦ 住民投票の結果には法的拘束力はないが、事業者の計画に対する考えはどのように影響すると考えますか。

答：町長が事業者に住民投票の結果に基づく要請書を提出した際の事業者のコメントは「非常に重く受け止めている。その数字は無視できない。それだけの反対があることを肝に銘じる」と受け止めながらも、「今後も住民の疑問や不安に対して真摯に対応していき、丁寧な説明を続けていくというのが当社の立場。当社からは撤退しない」「災害廃棄物などの問題も考えると、兵庫県の西部に必要な施設との信念を持っている」と発言している。

⑧ 住民投票で賛成多数だった場合のシミュレーションなどはありましたか。

答：令和 3 年 1 月の住民投票条例制定請求者に、6,773 人の署名が集められたことや、同年 7 月の町長選挙、町議会選挙において、反対表明の町長、議員が当選し、議会構成も刷新されたため、賛成多数は想定していなかった。

⑨ 赤穂市をはじめ関係市町との連携はどのようですか。

答：建設反対を掲げる赤穂市の住民団体と上郡町の住民団体は連携しているようである。議会相互の連携はないが、行政の担当課間は常に情報交換し、連携をしている。

⑩ 住民投票の投票率、反対票 79%をどのように受け止めていますか。

答：処分場反対の民意は重く、町としても業者に対し計画の撤回を求める方針が固まった。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

令和 2 年「産業廃棄物最終処分場計画」を受けて、令和 3 年 1 月、住民投票条例制定請求者 6,773 人の署名が集められ、同年 9 月に条例案が可決された。『「産業廃棄物最終処分場」についてみんなで考えませんか?』という資料を通して、多くの住民が「産廃対策」を身近な問題として、意識することができた。住民投票の結果、反対が 79%に達し、新聞の社説にも取り上げられた。「処分場反対の民意は重い」との内容で、反対理由や賛成理由も記されている。西尾市においても産業廃棄物処分場については喫緊の課題であり、地域住民の民意を伝えていくことが重要である。その手段として、住民投票も参考にできる。(永山英人)

上郡町では、産廃処分場計画に対し住民団体が反対を表明し、署名活動を始め令和3年1月には6,773人の署名が集まったとのことであった。住民投票には50%以上の投票率が必要であるなかで、翌年7月の参院選に併せて実施をしたことは、大いに参考にすべきだと思います。しかしながら、住民投票の結果には法的な拘束力はなく、建設の許可を決定するのは県であり、本市においても市民団体とも連携し県や事業者に対し、建設は望んでいないことを継続して訴えていくことが重要だと考える。(小林孝幸)

産廃施設建設についての「住民投票」は本市でもめざすところであり、一步先に行く自治体の動きとして注目をしてきた。同町では、一度目の住民投票条例が議会で否決されたが、後の町長選・町議選で住民投票推進派が多数となったことで、条例制定を果たしている。

実際に話を聞くと、改めて、産廃問題は許認可権を持たない自治体にとって、そして住民にとっても大きな課題を投げかけるものであることを強く感じる。産廃施設の許認可権限が県にあり、設置自治体には、単に「首長の意見を聞くのみ」との現行法のままで良いのか、疑問は大きい。上郡町でも事業者からの説明は少なかつたようである。施設の建設場所はほとんどが隣の赤穂市であっても、排水関連設備が上郡町に偏っていると聞けば、地元として看過できないのは当然である。住民投票は行われたが、残念ながら事業者は「説明を尽くして建設続行」というから、さらに運動は続くものと思われる。町長も住民も事業者以上に「町民間の対話」を継続され、赤穂市との連携を深めていただくことを願うものである。

産廃行政がこれからも民間任せのままでは、全国で同じ問題が続くことは明らかである。官が資本参加した産廃施設であれば倒産する懸念もなく、処理水は法定基準内に収まる。施設内の状況もHPなどで公開されれば、周辺住民からも一定の理解が得られよう。いつまでも民間頼みではなく、国による「産廃施設のあり方に積極的に関与する抜本的な改変」を強く求めたい。

本市の場合、事業者が産廃建設を継続するのか別の手法に変換するのかは定かではない。どちらにしても事業者からの情報は極端に少なく、住民は判断のしようがないのが現状であり、難点である。市長には速やかな情報提供を進め、17万市民だけではなく三河湾全体の環境と生活と産業を守る姿勢の堅持を求めたい。「市民団体や漁協の望まないものは、市としても容認しないとする姿勢」を支援していきたいと考える。(鈴木規子)

清流で知られ、名水百選に選ばれている千種川が町の中心を流れる上郡町。処分場は赤穂市地内と言え、汚水は千曲川流域河川に流し、搬入路も上郡町からと言うのでは、説明責任も果たさない処分場計画は上郡町民に到底、理解されるものではないものだと感じました。住民投票に至るには、住民の直接請求から町の選挙を経て後と、紆余曲折はあったようだが、町民の声が政治を動かしたものだと思う。住民投票は、参院選と同時執行で、周知活動も十分研究された取り組みであり、同時に、町が定期的に「産廃処分場についてみんなで考えてみませんか」と問題意識を培ってきたことも、投票率7割近くを達成した要因だと感じました。(牧野次郎)

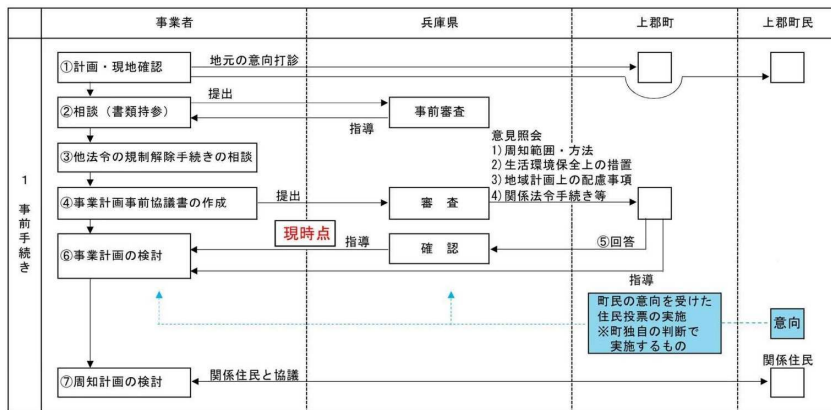
(経済建設委員会・兵庫県赤穂郡上郡町)

上郡町では産廃に賛成の地域住民と、反対の地域住民が現在も在るとのこと。反対住民の70%以上の署名により、産廃の住民投票の請願が出されたが、否決された(R3,1)。しかし、半年後に行われた町長・町議選後に開催された9月議会で、町長提案で産廃の住民投票条例が可決され、1年以内の実施が確定した。投票率の確保(50%以上)と、産廃問題の住民周知及び、経費削減のために、令和4年7月参議院選挙に併せて実施した。投票率69%、産廃反対79%の結果であった。住民投票で大事なことは、住民の産廃反対の意識の醸成が(過半数以上)不可欠である。また、投票率が50%を超えなければ開票をしないので、過半数の投票が期待できるタイミングを選定することが重要であり、選挙に併せて行った上郡町の選択は参考にすべきである。(鈴木正章)

令和2年6月に県より赤穂市と上郡町に産廃処分場の計画、概要を知らされたのをきっかけに町民による反対活動へ発展していった。計画の内容は、施設予定地が赤穂市西有年大山峠で、進入道路、排水予定地が上郡町梨ヶ原であり、計画面積約19万平方メートル、埋立容量約302万立方メートル、埋立期間20年間。令和3年1月住民投票条例制定請求者に6,773人の署名が集められたが、同月の臨時議会で条例案が否決された。同年7月の町長、町議会選挙において、反対表明の町長、議員が当選して同年9月に条例案が可決となった。

西尾市にも同様の問題があり、総じて思ったことは、民意をどれだけ吸い上げ反映させるかが重要で、住民投票条例の制定準備と市民団体との情報共有が必須と強く感じた。(藤井基夫)

本市も産廃問題を抱えており、条例制定や住民投票に向けた取組に向けて大変参考になりました。住民投票の成功への本質は、住人の反対に対する機運の醸成と他の国政選挙に合わせた投票日の設定であると理解出来ました。首長の交代により、一気に住民投票へ踏み切ったスピード感ある政策に感心しました。本市も少なくとも残土条例の制定にすぐに取り組むべきと考える。(中村直行)



出典 兵庫県資料より作成(青色部分は上郡町が追加)



設置許可取得における事務手続きと産業廃棄物最終処分場の計画地(上郡町ホームページから抜粋)

最新の道の駅「くるくるなると」について

【日時】令和4年11月8日 13時～16時

【場所】鳴門市役所 及び 道の駅くるくるなると

1. 視察地の概要

鳴門市は、四国東北端に位置し、人口約55,000人の都市で、豪快な渦潮の巻く鳴門海峡を隔てて淡路島と対峙し、古くから本州と四国を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。特に鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られ、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、市の北部沿岸一帯は瀬戸内海国立公園に指定された景勝地でもある。

昭和60年、鳴門市と淡路島を結ぶ大鳴門橋が開通したのに続き、平成10年には明石海峡大橋が完成し、神戸淡路鳴門自動車道が全線開通、続く平成14年には鳴門・高松間を結ぶ高松道が全線開通するなど、本州と四国を結ぶ高速道路網が整備されたことにより、文字通り四国の玄関都市として、恵まれた自然や歴史文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業を展開するとともに、サツマイモやワカメ、鯛などの鳴門特産の農産物の供給基地としての体制づくりを進めている。



鳴門市役所にて

2. 調査事項の概要

(1) 道の駅の重要性

四国の玄関口である鳴門市は、平成7年をピークに近年人口減少にあり、域内産業が衰退。転出者のうち約3割が仕事を求めて市外へ転出している状況であった。また、鳴門市の観光入込客数も減少傾向にあり、高速道路網の整備などにより観光客・移動者の行動範囲が広がるなかで、周辺観光地との広域的な競争に晒されている。この場所は、国道11号線沿いの鳴門市で最も交通量の多い地点であり、鳴門ICにも近く、関西・香川・徳島方面からのアクセスが容易であること。平常時は、地域内外から新たな人の流れを鳴門市に呼び込み、交流人口拡大や地域活性化を図る交流拠点となり、非常時は道路利用者や市民の避難活動や支援活動の防災拠点として求められていた。

(2) 道の駅整備概要

名 称	道の駅くるくるなると
所 在 地	徳島県鳴門市大津町備前島字蟹田の越 338-1
開 駅 日	令和4年4月29日
電話番号	088-685-9696
H P	https://www.kurukurunaruto.com
駐 車 場	普通車 152 台 大型車 16 台 身障者用 3 台 EV 急速充電器 1 台

指定管理者 株式会社TTC
(全国18駅の道の駅の指定管理者)

四国地方で89駅目、徳島県で18駅目となる道の駅



道の駅「くるくるなると」にて

3. 主な質疑とその回答

① 開駅に至った経緯と目的はどのようなのですか。

答：「新しい賑わい創出施策」として四国のゲートウェイ推進事業を計画（H29.3）。その計画の中核プロジェクトとして、鳴門市への実質的な出入口となる幹線道路沿いに、情報の受発信や賑わい、憩いの機能を持ち合わせた交流拠点施設（道の駅）を整備することで、交流人口拡大と地域活性化を図り、本市が名実ともに四国の玄関口としての認知度とブランド価値を高めるための施策である。

② 開駅すると発信したのはどなたからでしたか。

答：国土交通省との一体型の道の駅であり、用地買収や各種工事、指定管理者による開駅準備等の状況を踏まえ、国土交通省と鳴門市が連名で開駅日を発表したもの。

③ 開駅にあたり最も苦労したことは何ですか。

答：関係者や関連団体との各種調整に最も苦労しました。用地買収や隣接する農産物直売所「えがお」との商品の取り扱い、国の仕様や基準と微妙な違いがあり、国土交通省との工事間調整でも苦労をした。

④ 道の駅の設計および施工は行政主体ですか、それとも民間主体ですか。

答：サウンディング調査より公設民営方式を採用した。施設の設計段階から運営業者を選定し、準備段階から積極的な関与を促すことで、民間事業者のノウハウやアイデアを活用することで、施設の収益性や利便性を高めることを目的とし、全国公募を経て、地域特産物を活用した商品開発に特徴のある業者を選定した。

⑤ 運営および維持管理はどのようにされていますか。

答：指定管理者制度を採用している。一部テナント以外は、指定管理業者の直営。
指定管理者は、鳴門市に子会社を設立し、連携して運営を行っている。

⑥ 来場者数は、当初の見込みと現況に乖離はありますか。

答：当初計画は、年間来場者数約50万人、年間売上約5.5億円を目標としていましたが、現状（4/29～10/31）間の半年間で、来場者数約69万人、売上約8.5億円と当初計画より大幅増となっている。

(経済建設委員会・徳島県鳴門市)

⑦ 来場者数を増やすために努力されていることは何ですか。

答：運営事業者による、オープン以降も新商品の開発、大小さまざまなイベント企画、SNSの活用やメディアへのプレスリリースなどを行っている。

⑧ 地元 JA や各種農業・漁業団体・商工関係者などとの連携状況はどうですか。

答：商品開発の面での原料供給や製造委託といった直接的な連携のほか、各種団体が主催するスタンプラリーやイベント等においても連携をしている。

⑨ 新たに道の駅が開駅したことによる住民の変化はどうですか。

答：鳴門市の新しい顔としての期待や、商売のチャンスと感じる事業者や生産者もいると感じている。しかしながら、通勤や通学への渋滞や混雑を指摘する声もあることも事実です。

⑩ 開駅から半年が経過し、関係者の声はどのようなようですか。

答：地域からは渋滞や混雑への対応策として駐車場増設、市内観光事業者からは、更なる鳴門市への滞在を促すため、周辺体制の強化に関する意見がある。

⑪ 今後、新たな道の駅をつくる場合、重要視するものは何ですか。

答：進化する道の駅のトレンドの事例などから、集客を図るためには立地条件と物販・飲食でキャッシュポイントを複数つくるのが大切であり、仮に再度道の駅事業に取り組む場合、この前提を可能とする事業用地の確保を重要視したい。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

鳴門市の道の駅は、公設民営方式が採用され、指定管理者と運営事業者が連携して運営を行うことにした。さらに準備段階から積極的に関与してもらい、収益性や利便性を高めている。来場者数を増やすために、新商品の開発（季節限定・期間限定）、大小様々なイベント、SNSの活用やメディアへのプレスリリースなどの努力をされている。開設後の住民や関係者の声に対応し、新たな対策や取り組みも考えられていた。「道の駅」が観光の目的地として注目されるようになってきた現在、観光に力を入れたい西尾市としても、こうした取り組みを参考にしたい。(永山英人)

今や観光の目的地となっている道の駅。間もなく全国で約1,200もの道の駅が開駅することになります。西尾市においても道の駅西尾岡ノ山に次ぐ、道の駅計画を考えていかないかと言う私の意見を取り入れていただき、今回の委員会行政視察となりました。くるくるなるとは、令和4年4月にオープンしたこともあり、施設は真新しく特産品のなると金時のオブジェに出迎えを受け、鳴門市の海鮮を使ったお食事処、鳴門市の素材を使ったスイーツのお店、徳島県の特産物が



物産館内部の様子

(経済建設委員会・徳島県鳴門市)

数多くならぶ物産館。地元鳴門市の魅力満載の道の駅でした。国道 11 号線沿いであり、四国のまさに玄関口である鳴門市は、地域住民・観光客にとって利便性の高い好立地となっていることから、長期にわたり魅力があり、これから益々地域に愛される施設となるであろう。

西尾市においても、中心部から離れた地域にでも、利便性の高い好立地な場所を選定し民間事業者と連携しながら新たな道の駅の必要性を行政視察で改めて感じました。(小林孝幸)

道の駅「くるくるなると」は、国道 11 号線沿線で 1 日に 4 万台もの交通量がある市の中央地域に設置されている。担当者の説明から感じたのは、市を挙げての「道の駅設置への本気度」である。全国各地を調査に歩き、全国から公募した結果、県内外から 4 社がプロポーザルに参加している。

選定されたのは静岡県下を中心に 18 の道の駅を運営する(株)TCC だが、鳴門市では、公設民営を成功させるために、施設の設計段階から TCC を参画させ、さらに、飲食物販施設の内装設計や工事、備品整備も同社が費用を負担している。細長い長方形の施設の両ウイングにそれぞれ海鮮丼の和食、若者向けの洋食といった飲食部門を置き、中央部分に物販が並べられているが、箱買いにも対応できるような陳列や交差しにくい動線にも配慮を感じたところである。指定管理は 6 年間で、初年度は開業前 1 年間の準備期間としたとのことである。鳴門市側が事業者の積極的な事業展開を期待し、関与を促してきたことは大きく評価できる点である。他市をみても、指定管理制度で成功している自治体では、多くが計画の初期段階から事業者に参加させていると言えよう。

本市の場合、23 号線沿いの道の駅は、片側通行車しか入場できないところが残念至極の立地だが、駐車スペースの拡張にも後れを取っている。営業についての独自努力はどうだろうか。限定された物販スペースではあるが、飲食部門の充実や生産者との意見交換などさらなる工夫が望まれるものである。(鈴木規子)

鳴門市は、以前は人と物の流通の地であったものが高速道路網の整備で通過する街になる中、地域振興の拠点として道の駅の必要性が感じられ、四国への出入り口となる道路の交通量は一日 4 万台という好立地でした。施設は、玄関前のサツマイモや屋上の魚介類のオブジェがあり、施設内各所に商品紹介の QR コードボードに SNS 発信をと、とにかく「インスタ映え」と「口コミ」がされ利用取り組まれていることは、岡の山道の駅でも参考になると感じました。飲食コーナーは、徳島ラーメンや海鮮丼と鳴門ならではのもの人気の様で、好評だと思われました。物産では、サツマイモに鳴門わかめを主とした商品が並び、サツマイモをトッピングしたソフトクリームが人気商品だとのことでしたが、商品開発に知恵を絞ったことも、当駅が当初目標を上回る来客に繋がっているものと感じました。(牧野次郎)

(経済建設委員会・徳島県鳴門市)

国土交通省、鳴門市、JA との連携による道の駅で、開店後半年だが当初の年間見込みを大幅に上回っている状況である。成功の要因は、公設民営方式で設計段階から運営事業者の意見を取り入れ、運営後の管理がスムーズに行えるようにした。国土交通省の補助金活用でトイレ・駐車場棟に課題があるが、レイアウト、配置等は民間のノウハウが設計段階から活かされ、大成功の現状に繋がっていると感じた。物販施設の整備については、「くるくるなると」の公設民営方式で、設計段階から運営事業者の意見を取り入れた仕組みは、当市も参考にすべき内容である。

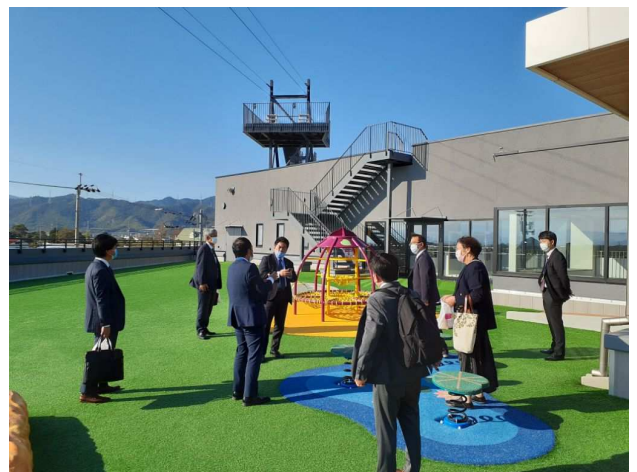
(鈴木正章)

この道の駅は、令和 4 年 4 月 29 日に開駅したばかりで、開駅した目的、経緯は、人口減少に伴い賑わい創出や地域コミュニティの衰退を懸念し、それらの向上を目的に「新しいにぎわい創出施策」として四国のゲートウェイ推進事業（平成 29.3）が計画された。また、フェーズフリーの推進による防災拠点となり得るよう整備されている。運営は全国公募を経て、民間事業者に委託している。（期間 6 年、年間指定管理料約 2,500 万円）

西尾市にもすでに道の駅はあるが、飲食スペースの拡充、食事メニューの充実や駐車場の増設など改善点は多々あり、休憩するだけでなく“立ち寄りしたい道の駅”に少しでも近づけるよう創意工夫が必要だと感じた。（藤井基夫）

国道沿いに地方創生拠点整備交付金（5 億円）を採択し、国土交通省が駐車場を整備するなど鳴門市が戦略的に事業化しており、尚且つオープンデッキを普段は公園で災害時には避難所に活用できる施設に感心した。また、飲食店も地元農産物や海産物を施設内で調理し、和食と洋食が選択でき、地元名産品の鳴門金時やレンコンを中心とした土産に特化しており、滞在時間を長くする工夫が随所に見られた。

本市の道の駅も飲食部門の充実を、特に海産物を提供されるよう期待します。（中村直行）



公園と防災拠点を兼ねるオープンデッキ

ごみ分別（ゼロ・ウェイスト）他について

【日時】 令和4年11月9日 9時半～12時

【場所】 つきがたに交流センター 及び
ゼロ・ウェイストセンター

1. 視察地の概要

上勝町は、徳島市から南東に車で1時間ほどかかる県央部にある山あいの町である。

面積は109,63㎥で、88%が山林。人口は1,429人で世帯数は746世帯と全国の743町の中では最も少ない部類にある。高齢化率も52.48%と大変高く、集落が50余りあるが、その多くが限界集落になっているとのことであった。

なお、上勝町は葉っぱビジネスの「いろどり事業（つまもの販売）」でも有名な町である。



ゼロ・ウェイストセンターにて

2. 調査事項の概要

西尾市の1人1日当たりのごみの排出量は1,053gで、資源化率は15.5%（いずれも令和2年度）であり、同規模自治体と比較してもワーストの部類になる。そのような中で、令和12年度供用の岡崎西尾広域ごみ処理施設整備計画がされているが、施設の整備と運用のコストは多大なコストを要する事になる。視察地の上勝町は、2003年に日本で初めてゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）を宣言し、45分別で資源化率80%を達成している。いかにごみを減量し、焼却処理を減らすための取組がされているか視察した。

なお、事業を説明していただいたパンゲア社CEO野々山氏は11年前に東郷町からこの地へ移住された方で、市内企業のメイテックス（株）社長と親戚になるとのことであった。



木質チップボイラーの様子

ゼロ・ウェイスト事業の説明に先立ち、会場となった月ヶ谷温泉施設の「エコ」の取組が紹介され、CO₂排出削減を図るため、ドイツ製の木質チップボイラーを[250kw][500kw]各1基設置し、木質バイオマス燃料を用いて温泉を沸かし、また、給湯・部屋暖房等にも使用してCO₂を約322,869kg削減し、地球温暖化防止の一助となっている。

また、有償ボランティア輸送事業について、シルバー人材センター内で運営している社団法人「陽だまり」の美馬氏から説明を受けました。上勝町は過疎化が進み、タクシー業者の休業、バス路線が廃止される中、町民の有料ボランティアと自家用車等を活用した移動サービスを平成18年から開始、徳島市内の医療機関や空港へも使われている。令和3年度は、利用登録会員282人に対し、運転手登録は37人。料金はタクシーのおおむね1/2程度で、延べ利用は1,728人となっている。

ごみの分別（ゼロ・ウェイスト）について

○ ゼロ・ウェイスト宣言の変遷

- 1997年 それまでは大きな穴で、あらゆるごみの野焼きをしていた。
- 1997年 容器包装リサイクル法で、缶、瓶など9品目の分別回収が始まる。
- 1998年 県から野焼き禁止の通告を受けていた町は、2基の小型焼却炉を導入し、野焼き終了。
- 2000年 ダイオキシン規制法ができ、ダイオキシン類が規制値をクリアしていないことがわかり、小型焼却炉はわずか3年で閉鎖し、焼却ごみは民間業者にて処理。(1 コンテナ当たり17万円の莫大な経費が掛かることに。)
- 2001年 ごみ政策を大きく転換。焼却ごみをできる限り減らすためリサイクル業者を探し、30種類以上の分別が始まった。役場職員が町民に丁寧に説明を続け、分別が浸透し始めた。
- 2003年 アメリカでゼロ・ウェイスト運動を啓発していたポールコネット教授が上勝町を訪れ、教授のゼロ・ウェイスト宣言の提案を議会で採決。2020年までに焼却ゼロにする目標を掲げ、日本初のゼロ・ウェイスト宣言をするに至った。

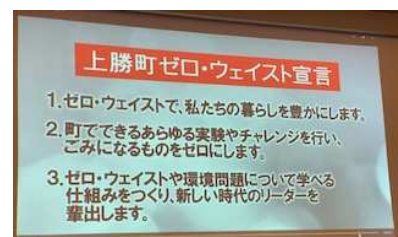
○ 現在のゼロ・ウェイストの取組

上勝町では、町内唯一の収集拠点のゴミステーション（ゼロ・ウェイストセンター「2004年4月に完成5億6千万円で完成」の中に設置）に自分たちでゴミを持ち込む。

特徴1 ゴミ収集車が町内を走っていない。

特徴2 細かな資源の分別「45分別」

独自にリサイクルできる業者を探し、町民が分別できるものを検討して、これだけの分別が可能に。種類ごとに、どこでどのようにリサイクルされるのか、処理にかかる費用、買取価格が表示されている。町民と直接コミュニケーションが取れることによって改善が行われている。



ゼロ・ウェイスト宣言



リユースショップにて

特徴3

ゴミステーションは嫌な臭いがしない。生ごみをすべて家庭で堆肥にしているからで、食品の入っていたものも洗って乾かしてから持ち込まれている。生ごみは、電動の生ごみ処理機コンポストでたい肥に。(町からの補助があり、自己負担額は1万円。)

家庭では、13種類程度に分別され、ゴミステーションで細かく分別される。ステーションへ自己搬入ができない高齢者には、2カ月に1度、ごみの運搬支援。一般ごみは無料、粗大ごみは270円で回収。リユースはリサイクルセンターで整理し、誰もが自由に無料で持ち帰ることができるリユースショップがある。ショップ内は、雑貨店の様で利用しやすい雰囲気であった。持ち込みは町内だけだが、持ち帰りは町外の人でも可能。2019年度は約5tが持ち込まれ、ストック分も含めて約6.5tが引き取られ再利用されている。くるくる工房では、持ち込まれた着物やこいのぼりの生地などを使ったリメイクショップも併設されている。

(経済建設委員会・徳島県勝浦郡上勝町)

ゼロにする目標年次の2020年に80.8%を達成しているが、ゼロ目標は果たせなかった。宣言後、14年間で分かったことは、リサイクルできなかつた20%が行政や町民の努力だけでは解決できないこと。これを減らすには、商品を作る企業や社会の仕組みが変わらなければならない。

このことから、2020年に新しく2030年までに「未来の子どもたちのクラス環境を自分のこととして考え、行動できるひとづくり」を重点目標に掲げ、再びゼロ・ウェイスト宣言をした。宣言は、「1. ゼロ・ウェイストで、私たちの暮らしを豊かにします。」「2. 町でできるあらゆる実験やチャレンジを行い、ごみになるものをゼロにします。」「3. ゼロ・ウェイストや環境問題について学べる仕組みをつくり、新しい時代のリーダーを輩出します」というもの。

野々山氏によれば、宣言に「主語」がないのは、町民ではなく企業・事業者への働きかけ、実験やチャレンジを協働できるように働きかけができることの意味合いということである。

同年に新設されたゼロ・ウェイストセンターには、町内外の人が交流できるホールや企業が利用できるオフィスラボ、宿泊施設なども備えている。そこでは町内外の人と企業が話し合い、ごみをなくし、持続可能な社会を模索されている。



視察中の様子

3. 主な質疑とその回答

Q. 上勝町では、13種類45分別を行っているそうだが、当初は町職員が立ち合い、分別指導などをされたのか。それとも民間委託か。また、各家庭での分別はどのように行われているか。

A. 宣言後、まず33分別に移行したが、移行期間はわずか2カ月だった。町職員が集落ごとに回り、説明会を行った。ゴミステーションに持って行けば、職員が分別を教えていた。各家庭では、ざっと5種類ぐらいに分け、紙、缶、プラスチック、ペットボトル、燃えるゴミぐらいで、あとはステーションで細かく分類をしている。

Q. 町民がスムーズに分別できるようになるまで、実際にどれくらいの期間を要したか？

A. 移住者には、分別方法や種類などを理解するには、およそ半年ぐらいかかるように思われる。

Q. 80%のリサイクル率と言われるが、20%のごみはどのようなものか？また、その処理方法はどのようにしているか？

A. 20%のリサイクルできないものとしては、①素材が主にゴム類（長靴など）②複合素材で個人では分別できないもの（靴屋など）③保健衛生用品（マスク、ティッシュ、紙オムツ、生理用品等）が焼却に。紙オムツや生理用品は製造企業がリサイクル処理を行なえるが、上勝町では、処理委託できるだけの量がない。リサイクルできない焼却ごみは、現在、福島市内の民間事業者にキロ単価61円で焼却処分を委託している。

Q. ゼロ・ウェイストに挑むための町民への同意形成は、どのように行われましたか？

A. ポールコネット教授の講演で初めて町民がゼロ・ウェイストの考えを知ることになった。宣言し、33種類の分別から始めたが、ふたを開けてみると7割の人が賛同された。罰則も報酬もなく、賛同と協力を得られたのは、葉っぱビジネスの成功がメディアなどで取り上げられるなど

(経済建設委員会・徳島県勝浦郡上勝町)

の経験が町民の誇りになってきた中で、ゼロ・ウェイストも国内初のブランド確立をすることが認知の欲求(褒められる喜び)という形で心理的報酬になったと思われる。行政主導ではなく、町民主導型での事業展開になった事も大きい。残りの30%の方は、上勝町は地域のつながりが強い地域であることから、周りの方からの影響も大きかったように思われる。

Q. ゼロ・ウェイストによる経済効果は、宣言前と比較してどのぐらいあったか。

A. 資源物の売り上げは、価格相場で差が大きく88万円から250万円程度。一方、有料で引き受けてもらう蛍光灯、プラスチック類などは600万円程度で、その差額が中間処理費用となる。それ以外に、ゼロ・ウェイストが上勝町のブランドになった事を売りものの事業所が立ち上がり、カフェや観光につながっている。IターンUターンは県内でも一番多い。

Q. 資源ステーションの運営はNPO法人とのことだが、当該法人をどのように立ち上げ、今日までどのような苦労があったか。また、当該法人の会計状況はいかがか。

A. NPOは、現在はゼロ・ウェイストアカデミーとなり、講演会などのみの収入。資源ステーション運営は、今は町直営となった。分別の手伝いなども町職員が常駐で行っており、シルバー人材センターからも一人派遣して、平日は2人、土日は3人体制となっている。

Q. 生ごみは各家庭でコンポスト等により処理されているとのことだが、大量に生ごみ等が発生する施設や事業所ではどのように処理されているのか。

A. 飲食店等での共同組合により大型の業務用生ごみ処理機を所有し、ゴミステーションで組合員のみが無料で堆肥化をしている。年会費は3万6千円。

Q. 町内の野焼きや不法投棄等の状況はどうか。また、その対応はどうされているか。

A. 不法な野焼きはなく、ポイ捨ても不法投棄も町委託業者が週1回巡回しているが、ほとんど見ない。

Q. 引っ越しや遺品などで大量のゴミが出る場合や災害ごみ等はどうされているか。

A. 同じように、ゴミステーションで45種類に分別していただき、無料です。

Q. 高齢者や車を持たない家庭など、ステーションに自己搬入が困難な家庭にはどのような支援をしているか。

A. 2カ月に1回、申請されている家庭にゼロ・ウェイストのスタッフが運搬支援を行っている。

Q. 「ちりつもポイントキャンペーン」の事業概要や現況はどのようか。

A. 世帯に1枚所持され、ポイントが雑貨、日用品と交換できる仕組み。財源は、資源ごみの売却収入や寄付をゼロ・ウェイスト基金で積み上げている。

Q. ゼロ・ウェイストについて、今後の課題や取り組まれることがあればお伺いしたい。

A. 課題は、やはり町民の分別の手間(面倒くささ)の軽減。ゼロ・ウェイストを教育の中で学ぶことの必要性を感じている。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

上勝町は、2003年にゼロ・ウェイスト（廃棄物）宣言をし、17年で町民一人一人がごみ削減に努め、リサイクル率80%以上を達成。2020年4月、ゼロ・ウェイストセンターがオープンし、ゼロ・ウェイストを学びたい人が交流体験できる。上勝町では、現在ごみの分別は13種類45分別。細かく分別することで焼却・埋め立てごみから資源を救い、処理費用も大幅に抑えることができている。西尾市においても、ごみ減量を考える市民グループを立ち上げ、ごみの資源化に取り組んでいる。ゼロ・ウェイスト宣言をした地域の活動を参考に「分ければ資源」の考えを広め、地域の特性に合わせて、資源化できるようなシステムを構築してほしい。
(永山英人)

上勝町でお話を伺い、驚くことがいくつもあった。まずは25年前まで、ごみは大きな穴を掘って、あらゆるごみを野焼きしていたということ。ごみ収集車は走ってなく自分達でごみを持ち込んでいること。生ごみは全て家庭で堆肥にしていること。13種類45の分別を行っていること。普段の我々からは想像もできないことをこの上勝町は実施をしている。行政、町民が共に並々ならぬ努力や苦労があったと実感した。本市においても広域ごみ処理施設建設計画があり、施設や運用コストのことも当然重要であるが、根本的にまずごみを出さない仕組みを考えるべきだとこの施設を訪れて痛感した。(小林孝幸)

全国初の「ゼロ・ウェイスト宣言」「リサイクル率80%以上」という評判をかねて聞いており、本当にゴミ収集車は走っていないのか、いわゆる「ごみ」は出していないのかを実際に確かめてみたいと思ったのが正直なところである。結論として、収集車は走っていない。生ごみは各家庭で処理されている。そして、焼却に回すごみとしての現在値は6tで、汚れた紙類・紙おむつ、ゴム製品等とのことであった。それらは県内の民間施設で焼却処分されており(入札：キロ単価61円)、町内の飲食業者は組合を組んで大きな生ごみ処理機を所有し、共同処理をしているとのことである。「人口1,500人の町だから出来ること」というのは簡単だが、同町の財政力は0.12である。使える予算は極めて限られる。「大枚を投資して出来たばかりの町営焼却場がダイオキシン規制法によって使用不可になる」というピンチを「町民の危機意識に訴え、『資源としての分別推進』というチャンスに変換した町長と職員の手腕に敬意を表したい。

さて、本市の取組である。リサイクル率は15%と極めて低い。上勝町を見て思うが、資源ごみ集積所はもう少し増やせないだろうか。市役所の集積場が盛況であることからすれば、支所への併設を提案したい。現在、市民一人当たりの可燃ごみの量686gは県下ワーストワンである。これを打開するために「雑がみ」の収集範囲が広げられ、汚れた紙と紙おむつ以外はずべて「雑がみ」となった。分別の観点からすれば課題を含むが、とにかく「紙は資源」と訴える窮余の策と捉えよう。

製品プラの分別収集は令和8年度というが、前倒しはできないか。生ごみ処理機の積極的な普及、草木類の分別など、まだまだ出来ることはあるというのが、上勝町からの学びである。

(鈴木規子)



ゴミステーションの様子

ごみの分別については、西尾市もごみ減量化に向けて避けて通れない市民の行動である。市民の立場からすれば、面倒な仕分けをせずに、一括で出せることが一番簡単である。しかし、地球にやさしく、環境に負荷をかけない社会の実現にはごみの分別は不可欠である。上勝町のごみステーションで表示してある、資源の処理先、販売単価は分別者の動機付けに有効な方法である。また資源ステーションを小学校区単位に設置することで分別回収率が向上するのではないか。市民一人一人に協力をいただかないとできないごみ分別、特効薬はないができることからの積み上げが大切である。(鈴木正章)

ゴミ収集車はなく、リサイクル率は80%。上勝町と町民による、SDGsを心がけた様々な取り組みは、町の隅々まで行き渡り、町のブランドやプライドに醸成して生活に馴染んでいることが伺えました。企業や国の取り組みも大切ですが、自らが毎日欠かさず行う小さな取り組みの積み重ねがどれだけ効果的か、その大切さが理解できた。ゴミをどう処理するかではなく、ゴミを出さない生活を心がけることが、持続可能な社会づくりに対して私たち個人が貢献できることだと、上勝町の取り組みと暮らしを見て実感できました。小さな町だから可能ということではなく、鎌倉市や小金井市ではリサイクル率が50%を超えており、西尾市でも住民理解を得ながら、向上策を取り組む必要があると思いました。(牧野次郎)

以前の上勝町のごみ処理方法は、分別せずに全てのごみの穴を掘り、野焼きをして処分をしていた。次に焼却炉を導入したが、新たな環境基準に適さず使用できなくなり、ごみ収集を民間委託するようになった。結果、委託料が町の予算に大きな負担となってしまった。予算の負担を軽減するために、ごみの分別を18品目から始め、2003年に「2020年までに焼却や埋め立てをせずにごみをゼロにする」ことを目標に挙げ、ゼロ・ウェイスト宣言を果たした。

現在では45品目の分別、リサイクル率81.1%(全国平均19%)を達成していて、住民に対する説明会を何度も行い、ごみステーション(職員が常駐)を建設など、町を挙げて取り組んだ結果だと感じた。西尾市も常設ごみステーションがあり、分別への理解、分別の指導など参考にすべきと感じた。(藤井基夫)

有償ボランティアタクシー事業について、住民が共助の精神で「白タク」に取り組む。以前は国の特区でなければならなかったが、現在は数多くの自治体に取り組んでいる。本市もいこまいかーを補完するこの事業を調査・研究すべきと考える。ゼロ・ウェイスト宣言により、ごみ収集車を使わずに、ごみステーションへ各自で持ち込み45種類に分別されていた。短期間でこの仕組みづくりを推進し、住民の理解や対応は可能かどうかを伺ったが、当初は戸惑うも今では住民が自立し、承認されることが、『誇り』となり、過疎化した町に視察研修が枚挙にいとまがないとのことであった。本市も更なるリサイクル率向上に向けた取組を推進すべきと考える。ごみをお金にかえる！(中村直行)



未来のこどもたちの暮らす環境を
自分の事として考え
行動できる人づくり

令和2年度版

資源分別ガイドブック

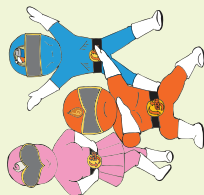


the most beautiful
villages
in japan

徳島県上勝町

資源とごみの分け方と出し方

資源	ごみ
① まだ使えるもの	P6
② 生ごみ ※自家処理	P7
③ 金属類 <ul style="list-style-type: none"> ● 雑金属 ● スチール缶 ● アルミ缶 ● 金属製キャップ ● スチール缶 	P8 ~ P9
④ 紙類 <ul style="list-style-type: none"> ● 硬い紙心 ● 紙パック(白) ● 新聞・チラシ ● シロリタケくず ● 雑紙(白) ● 段ボール ● 雑誌・雑紙 ● その他の紙 ● 紙パック(黒) ● 紙ハット(黒) 	P10 ~ P13
⑤ 布類 <ul style="list-style-type: none"> ● その他の布類 ● 衣類・手巾 	P14
⑥ バイオマス類 <ul style="list-style-type: none"> ● 廃食油 ● 割り箸・木竹製品 	P15
⑦ プラスチック <ul style="list-style-type: none"> ● ペットボトル ● その他のプラスチック ● プラスチック製容器包装 ● プラスチック製容器包装 ● 目黒リヤ 	P16 ~ P18
⑧ びん類 <ul style="list-style-type: none"> ● 一升びん・トルびん ● その他の色びん ● 透明びん ● 茶色びん 	P19
⑨ 危ないもの類 <ul style="list-style-type: none"> ●ライター ● 電球・蛍光灯 ● カラス・喫煙器類 ● 乾電池 ● 廃バッテリー ● 鏡 ● 水銀体温計 	P20 ~ P21
⑩ 粗大ごみ <ul style="list-style-type: none"> ● 粗大ごみ(燃焼処理品) ● 粗大ごみ(不燃) ● 粗大ごみ(金属類) ● 粗大ごみ(不燃) 	P22
⑪ 燃やせなければならぬもの	P23
⑫ 埋立てなければならぬもの	P24
⑬ お金がかるもの <ul style="list-style-type: none"> ● 特定家電 ● 廃タイヤ ● 廃消火器 	P24 ~ P25

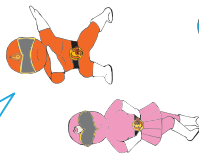


まずはP4~5の上勝町のごみ出しの基本ルールや
 家のごみ箱例をみてください。混ぜれば資源。分ければ資源。
 みんなで協力してごみを減らしていきましょう！

上勝町のごみ出し基本ルール

- 1 生ごみは自分の家で処理
電動生ごみ処理機については、p7参照
- 2 生ごみ以外はゴミステーションへ持ち込む
自分で持ち込めない人は、p29参照
- 3 持ち込むものはきれいにして持ち込む
事業所も家庭と同じルールで分別します。

ごみで分らないことがあつたら、ゴミステーションに聞いてみてください。連絡先は裏表紙にあるからね。



生ごみは自家処理だからゴミステーションには持ち込まないよにしてね。

家には45個もごみ箱を置くのはよく出るものだから、おとこはゴミステーションに行つてから分けられるからね。



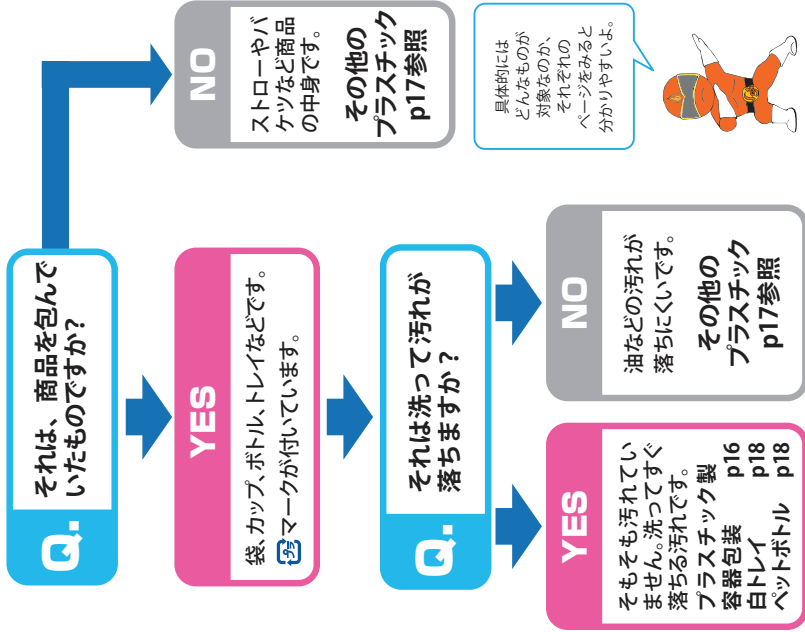
プラスチック Q&A

同じプラスチックなのに、なんで容器包装だけ別に集めるの？一緒にすればいいじゃない。

A. 容器包装リサイクル法では、事業者がその事業で用いた容器包装のリサイクルを行う義務を負うことが決められたんだ。だから、商品そのものの容器包装が分ける必要ができた。大企業では、年間十数億円のリサイクル費用を払っている会社もあるそうだよ。逆に、町ではリサイクル費用をほとんど払わなくて済んだ。容器包装として出せばね。



プラスチックの見分け方



どこまで洗えばいいの？

Q. 汚い容器包装は、焼却じゃなかったかしら？

A. 洗剤まで使う必要はないよ。水でゆすいで汚れが落ちなかつたら「その他のプラスチック」も守らなきゃいけないからね。あと、納豆の缶の小袋みたいな、洗うのが難しいものも中身を出して「その他のプラスチック」に切つて「その他のプラスチック」に入れて大丈夫さ。

A. 2011年までは焼却だったんだけど、今は「その他のプラスチック」のボイラー燃料にリサイクルされるの。お金はかかるんだけど、燃やすより安いし、資源のほとんどを輸入に頼っている日本にとってエネルギーの節約にもなるわ。

